

# SDGs 未来都市と地方創生戦略 ―白山市を対象として― ～SDGs未来都市白山市の賑わい創出事業～

団体名 ● 梅田ゼミナール (2・3年) / 代表者名 ● 梅田充 (経済学部経営学科・講師)

## はじめに

梅田ゼミの活動目的は、SDGs未来都市であるに選定された石川県白山市を対象として、SDGs目標達成のためにいかに戦略をマネジメントするかである。

社会、環境問題への取り組みとしてSDGsが注目されている。わが国でも内閣府が主導でSDGs未来都市の選定が行われ白山市も選定された。一方で、企業、公益組織問わず、社会価値、環境価値をいかに戦略に取り組むかは喫緊の課題である。そこで、本活動では、地方自治体に焦点を当て、戦略にSDGsを取り込み実行するのかを明らかにする。

## 活動内容

本活動では、SDGsのキーワードである持続可能性から検討を行った。持続可能性を議論するうえで、1994年にElkingtonが提唱したトリプルボトムラインをベースに活動を行った。トリプルボトムラインとは、経済価値、環境価値、社会価値を同時追及することではじめて持続可能な社会が実現できるという理論である。

まず、2021年にSDGs未来都市に選定されている全86市区町村の取り組みをトリプルボトムラインの軸で分類した。その結果、3つの価値を同時追及している市区町村はわずか4市区町村であった。つまり、多くの市区町村がSDGsというお題目はおるものの実現可能性が低い、またはトリプルボトムラインの達成には程遠いものであった。

次に、SDGsの取り組みと地方創生戦略の関わりをみるために、石川県内で選定された5市区町村の創生戦略を分析した。分析の軸は、トリプルボトムラインが戦略目標に組み込まれているか、戦略目標間の関係性、戦略目標とKPI及びアクションプランとの関係性である。分析の結果、約60%以上が戦略目標と戦略目標を測定するKPIが不整合であることが分かった。また、すべての市区町村で戦略目標間のつながり

は示していなかった。

戦略をマネジメントするには、戦略目標を測定しなければならない(Kaplan and Norton,2004)。そこで、白山市の創生戦略から戦略の策定と実行のマネジメントシステムであるBSC(balanced score card)の構築を行った。

## 成果、結果の考察

本活動の成果は、次の3点である。第1に、SDGs未来都市に選定されている全86市区町村の取り組みをトリプルボトムラインの視点から分析した点である。SDGs未来都市選定基準のあいまいさから実行可能性が乏しく、3つの価値の同時追及が行われていない都市も選定されていることが明らかになった。

第2に、石川県内で選定された市区町村の創生戦略の戦略目標を分析した点である。分析の結果、戦略の下、本来ならば因果関係を持たなければならない戦略目標が結合しておらず、1つの戦略として収斂していないことが分かった、また、戦略目標とKPIが不整合ということも分かった。

第3に、以上の課題解決のために白山市の創生戦略からBSCを構築した点である。顧客の視点を社会と読み替え、BSCを構築することでトリプルボトムラインを達成し、戦略目標、KPIおよびアクションプランを結び付けることができた。つまり、市区町村におけるSDGs戦略にBSCが有効であることを明らかにした。

## 今後の課題

地方自治体におけるSDGs戦略実行のためには、他組織との連携が必要不可欠である。今後は、いかにして他組織と連携するのかがについて活動する予定である。